

令和2年度 第4回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和2年9月2日（水）15：00～16：40

2 場 所 置賜総合文化センター 203 研修室

3 出席委員

尾形健明会長、赤井直美委員、鹿俣貴裕委員、小関洋子委員、佐藤和子委員、柴田正孝委員、白石祥和委員、須藤正彦委員、清野雅好委員、高澤由美委員、長谷川健委員、松田智博委員、吉澤彰浩委員、渡邊修一委員、以上14名

（相田哲郎委員、大和田浩子委員、須藤昌志委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、上下水道部長、教育管理部長、教育指導部長、会計管理者、議会事務局長、市病総務課長（市病事務局長欠席により市病総務課長代理出席）

総合政策課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）副市長あいさつ（要旨）

副市長 委員から、広報用のマスクケースをいただき心遣いに胸が熱くなった。こういった気遣いが良いまちをつくっていくと思う。本日も皆様の温かくまた厳しい意見をお願いしたい。

（3）会長あいさつ（要旨）

会 長 昨年の8月21日に第1回目の審議会が開催され、1年が経過しようとしている。本日から、総合計画全体を俯瞰する視点で、我々がこれまで策定してきた後期基本計画を眺めて欲しい。いつも委員の皆様の貴重な意見に感謝する。残り3回だが、最後までよろしくお願いしたい。

（4）議 事

事務局 規程に従い、これからの審議について、尾形会長に議長をお願いしたい。

会 長 それでは、議事に入る。本日の会議については、17時までには終了したいと考えているため、委員の皆様の協力をお願いする。（1）後期基本計画案第2章前回審議会で出された質問・意見への回答について、事務局から説明願う。

事務局 資料1「質問・意見回答書」に基づき説明。（修正後の第2章については、参考資料1を参照のこと）

会 長 ここまでの説明について、質問はあるか。

（委員からの質問・意見なし）

なければ、次に進む。（2）後期重点事業（案）について、事務局から説明願う。

事務局 資料2「まちづくり総合計画後期基本計画 後期重点事業（案）」に基づき説明。

委 員 9.Society5.0の実現に向けた取組については、通信設備の整備から始め、小規模店舗までを含めたキャッシュレス決済の推進など、時間軸・内容を吟味して掲載して欲しい。ここを重点的に進めることが必要だ。そういった整備をすれば、

コロナ禍でも仕事を持って移住してくれる人が増えるのではないかと。Society5.0に向けて、きちんと進めて欲しい。

企画調整部長

Society5.0の実現に向けた取組として、例えば、GIGAスクールは国のスケジュールに沿って進めることになる。他に具体的などころでは、RPAやキャッシュレス決済を進めたいと考えているが、どちらかというとも市の内部的な取組であり、ICTの活用については、民間の方が進んでいると感じている。通信基盤となる光ファイバー網の整備は進んでいるものの、実際にテレワーク等で必要となる通信容量等については、これから調査が必要だと思う。時系列的にととなるとイメージしにくいですが、少しずつ進めていきたい。

委員

通信基盤を整えない限り、学校で一人一台のタブレットを与えても意味がない。時系列的にとというのは、例えば、役所内が一番遅れているのであれば、そういった身近なところからでもいいので、一つ一つを着実に進めていって欲しいということだ。

企画調整部長

やれることから進めることが大事なので、この5年間で着実に進められるよう取り組みたい。

委員

2. 子育てについて、ハード面の整備や妊娠を望んでいる方へのサポートは必要だと思うが、例えば我々の法人では、精神的に自立していない若者が望まない妊娠をしてしまい、相談に来ることが増えている。子どもの支援を考える時に、親が心身ともに健康で、孤立してしまわないことが重要だ。そういった親の支援にも取り組んで欲しい。それから③に記載されている不登校やいじめの未然防止についてだが、中学校から高校に進学する段階で、不登校や課題を抱えてしまう子ども達が増えるようだ。そうなれば、市から県の管轄になってしまうが、そういった子ども達が社会に復帰できるための包括的な組織体制や継続支援が必要だと思う。

また、3. 健康長寿のまちづくりの推進で健康診断のことが記載されているが、我々の法人で関わっている若者は、働いていないために健康診断を受けられないようだ。また、精神疾患を抱え引きこもっている若者は、医療機関にも行かず健康診断も受けない。健康診断は企業主導になってしまっているが、働いているか否かに関わらず、健康診断を受診できるようにして欲しい。

健康福祉部長

親の支援については包括的な話になるが、今年度から総合相談体制により、世帯全体の悩みを丸ごと受け止める体制を進めている。そのような取組の中で、課題を抱えた若い人達の支援を行いたい。また健康診断についても、その中で取り組んでいきたい。

委員

いくつか検討いただきたい。まず、5. 「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりに記載されている②地域公共交通計画について、広幡地区等の乗合タクシー利用者から、乗合タクシーがかなり不便だとの話を聞いた。市内中心部に行くのは便利だが、診察時間が遅れたりすると、帰りの時間を合わせられず通常のタクシーを利用して帰ってきたとのことだ。今後は、そういった利用者の声を取り入れるとともに、乗車率や費用も考慮して計画を策定して欲しい。

次に7. 中小企業の振興について、県内には、山形大学・米沢女子短期大学・米

沢栄養大学以外にも、良い大学がたくさんある。あるラジオ番組で山形大学の学生が、広く他の大学と連携することにより気付かなかった視点を持ち、学生の力で米沢を良くしたいと語っていた。このように、広く若者の力を、ものづくりやまちづくりに反映させていって欲しい。

最後に、8. 米沢ブランド戦略については私も説明を受けたものの、理解しにくい。ものづくりの企業にとっては、良い取組だと思うが、サービス業などの他業種にとっては分かりにくい。後期重点事業のブランド戦略の記述を見ると、ものづくりの企業に特化して書いてあるように感じるので、文面を変更して欲しい。それから、売る側の生産者だけではなく、買う側の消費者の立場についても、どこかに記載してもらえないか。一度検討して欲しい。

企画調整部長

公共交通については、来年度の地域公共交通計画策定にあたり、今年度中に利用実態調査を行う。乗合タクシーやバスを使用しているしていないに関わらず、広く市民の声を聞き入れ、利便性をどうやって高めていけるか、いかに利用者を増やしていけるか検討していきたいと思う。またお金をかければ公共交通の利便性は上がるが、その財源である税金を無駄にしないように、持続できるシステムを構築することも必要だ。

産業部長

中小企業の振興について、山形大学に限らず若い人達の意見を取り入れて様々な取組に活かしていけないかという意見を頂いた。市では色々な形で、学生にまちづくりに関わってもらっており、その中で、山形大学が実施している起業家育成への支援等を行っている。中小企業との連携となると、地元企業では学生の活用はなかなか難しい現状であるようだ。ただ、我々の気付かない新しい若者の視点を様々に活かしていきたいと思うので、今後も研究していきたい。

米沢ブランド戦略の推進では、米沢品質向上運動を継続することが大きな目的であり、最終的には、米沢の様々なものの価値を高めていくことを目指している。ここで記載している自社製品等の「等」には、当然製品だけでなくサービスも含んでいるが、文末がものづくりを促進するとなってしまうので、書きぶりを変更したい。

委員

2. 子育てについてだが、2件要望したい。1点目に、乳幼児保育施設の現場では、人材不足が問題となっている。職につく人が少なく、幼稚園教諭の資格を持っていても離職している人が多い中で十分な人材が確保できていない。施設設備だけでなく、生きる力の土台をつくるという観点で、乳幼児保育・教育が重要だと思うので、市としてもぜひ人材育成に協力をお願いしたい。

2点目は、子育てへの支援に関して、保護者から施設（ファミリーサポートセンター）での手続きが難しい、施設利用料金が高等などの声を聞く。利用しやすく、安心して預けられるようにして欲しい。また、一人親や精神的なサポートが必要な方達も含めた親への支援に、後期基本計画でも力を入れて欲しい。

健康福祉部長

こちら人材不足について痛感しているが、解決策が難しい。今後、市でどのような貢献ができるか検討したい。また、施設の利用しやすい環境づくりについても、引き続き検討したい。

委員

4. 災害に強いまちづくりの推進について意見を述べたい。7月の豪雨でも、米

沢は大きな被害がなく、改めて災害に強いまちだと感じた。一方、雪対策は米沢では重要で、雪が嫌で転出する人も多いのではないかと思う。⑤に効率的な除排雪について記載されているが、人口は減少しているものの、除排雪距離が年々伸びている状況は矛盾しており、今後を考えると破綻するのではないかと心配だ。冬期間、土木課にかかってくる電話の中には、家の前に雪を置いていったというような苦情も多いようだ。米沢にずっと住んでいる人達は、除雪車は道路を排雪するためのもので、家の前の雪は自分で片付けなければいけないことは分かっているが、中には知らない人も多いと思うので、啓発というか、呼びかけも必要ではないか。また、雪については、市だけではなく、市民も協力して除雪していかなければならないと思うので、館山地区のように、流雪溝を整備することも必要ではないか。

建設部長 市道認定の延長や、新しく県道ができて引き続き旧道である市道の維持管理や除雪が必要であることから、ご指摘のとおり除雪延長は伸びてしまう。そのような中で、効率的な除排雪を行えるように色々と考えている。例えば、均一的な除雪は難しくなってくるので、主要道路と住宅街の道路で除雪をする基準を変えるなど、他市町村の事例を参考にしつつ検討したい。年々人件費上昇により、除雪単価も高くなってきているので、一層効率的な除排雪を実現したい。

家の前に雪を置かれてしまうという苦情は、確かにある。毎年12月号で、雪特集を広報に掲載したり、除雪業者と一緒に地区除雪説明会ではパンフレットを配布している。各地区除雪説明会には、地区委員が主に参加するため、もし資料が必要であれば、ぜひ地区内で回覧したり、市のHPにも掲載されているので参考にさせていただければと思う。館山の流雪溝については、素晴らしい施設であるが、勾配や水量、流雪溝協力会の支援等様々な条件が必要で、市内全てに整備することは難しい。特に、水の確保が重要であるが、市ではポンプで水を吸い上げて循環させる循環型流雪溝についても検討している。

委員 米沢では、家の前に川が流れているところを買うように言われる。また、雪が原因で隣人とトラブルになるというケースもよく聞く。今後も雪対策に力を入れて欲しい。

委員 全体を俯瞰して意見を述べたい。この重点事業は、全て1.人口定住の促進に集約されていると思う。2以降は、どちらかというとな戦術に近い。1が一番大きな目標かつ計画の背骨であり、残りの重点事業が独立項目ではなく、1.人口定住の促進に集約されていることが分かるような書き方にして欲しい。例えば、企業立地の促進についても、これまでの単なる労働集約型の企業誘致ではなく、スタッフ部門を抱えた人口増につながる企業誘致をするべきだ。ICTの活用、高速道路や公共交通の話は、全て人口減少対策のためのインフラ整備だ。このように、全体を意識した計画であって欲しい。

企画調整部長 全てが人口減少対策に集約されているというのは、ご指摘のとおりだ。そのような形で見せられるよう検討していきたい。

委員 重点事業を設定した基準が分かりにくい。前期重点事業の書きぶりも分かりにくいように思う。総合計画で重点事業を定めるのは、議会で説明しやすくする目的

もあるかと思うが、あくまで将来像の「ひとが輝き 創造し続ける 学園都市 米沢」につながるものだと思う。各重点事業は、1の人口定住対策を基盤としながら、将来像のどこに貢献する事業なのか分かるように記載するといいいのではないか。

会長 再度検討して欲しい。

委員 全体を俯瞰して足りないと思う点について述べる。これまでの議論で、出生率の低下理由は、そもそも結婚しない人が増えているからであり、出生率向上のためには、結婚する人を増やす必要があるという話があった。結婚しないのは、収入が少ない、安定しないことが大きな要因だ。結婚できるような安定した雇用条件を企業に検討してもらうことも戦略の一つになるのではないか。

企画調整部長 所得向上については、各施策において進めていくことによって、その実現が図られると思うが、そういった記載が必要ならば検討を進めたい。

委員 国の政策によって非正規雇用が推進されているので、企業はそのルールに従う以上、非正規雇用を進めざるを得ない。企業は、安定した雇用を推進したいと思っても、競争に勝つためにはそこまで取り組めない状況だ。その状況を諦めずに、地域において正社員雇用を増やすため公的な補助をすることが必要だ。

産業部長 国や県と連携して、非正規雇用を正規雇用にできるようなスキルアップ研修の支援をしている。また、地元企業の中には、比較的給与が恵まれた企業も多いが、高校生・大学生にそのことが浸透しておらず、首都圏や県外へ就職している面もあると思うので、今後改善していきたい。

委員 「前期重点事業の評価及び新たな視点等」に記載されている内容が、後期重点事業(案)に入っていないものもあり、例えば、2.子育てについて、不妊治療が後期重点事業に入っていないのが不思議だ。前期重点事業の評価として、子育て支援策の優先度は高いと書いてあるが、コロナ禍で、孤独に子育てをしている方が増加しており、特に移住者などは、孤独が理由で転出や、最悪の事態につながる可能性もあると思う。孤独にならない、皆が助け合えるような米沢市ならではの施策を入れて欲しい。

また新型コロナウイルスを踏まえ、衛生用品等の備蓄について後期基本計画の重点施策に記載してもらっているが、市立病院としての災害対策や感染症対策についても検討した方がいいのではないか。

健康福祉部長 前期である程度達成されたものについては、後期基本計画では、継続するものの重点施策としては掲載していない。子育て支援については、要望が非常に多い分野なので、様々な状況を踏まえて、その都度支援策を検討していきたい。

市病総務課長 新病院建設基本計画策定時には、コロナウイルスはまだ発生していなかったため想定には入れてなかったが、災害対策としては、新病院建設に際して、災害拠点病院を目指すこととなるため、それに向けて準備を進めたい。また、感染症については、コロナの経験を踏まえ、患者を受け入れた場合の動線や入院施設等を想定しながら、今後1年間で具体的な運用を検討する。

産業部長 先程言い忘れたが、市では企業誘致した企業に対し、様々な助成制度を活用している。その中の一つとして、正規社員として採用した場合に助成金を出し、従業員の定着化を図っている。

- 会 長 次に（３）SDG s の取組について、事務局から説明願う。
- 事務局 資料 3-1 「米沢市における SDG s の取組について」に基づき説明。
- 委 員 SDG s の 17 ゴールの内、米沢市が最も達成が難しいと考えているものはどれか。17 のゴールの内、一番達成度が低いゴールまでしか、SDG s は達成できていないと言われている。例えば、ゴール 2 飢餓などは、先進国である日本ではほとんど達成できていると思うが、反対に達成できてないものはどこなのか、ぜひ考えて欲しい。企業でも SDG s のカードゲームに取り組み、SDG s 達成を目指しているもののお金が無い状態だ。自治体には財源があり、SDG s のゴールで一番達成が低いものに補助金を出して企業を支援することができる。自治体がどこに補助金を出せば、SDG s を達成できるかという視点を持って、今後 5 年間の SDG s への取組を考えて欲しい。
- 総合政策課長 SDG s については、勉強途中であるが、17 ゴールの中で、市で取り組める度合いに差があると思う。どの部分に力を入れていくかは、これから検討していきたい。
- 会 長 興譲館高校では、自分達の研究のテーマを考える時に、SDG s のどの部分に該当するか考えながら、研究している。3 年程前から取り組んでいるようだ。
- 委 員 産業部長から話があったように、安定した雇用対策を SDG s のゴール 1 貧困への対策の一つとして盛り込んでもらいたい。
- 事務局 会議終了後に意見・質問があれば、質問等記載様式を活用し、9 月 11 日までに提出願う。また、次回の日程は、10 月 14 日を予定している。内容は、今回の意見への回答と、パブリックコメントに備え、全体の内容を示せるようにしたい。
- 事務局 以上で、審議会を終了する。